

『この人を治すのはあんたや』、先生のこの言葉を胸に刻みながらお母様の看病をされた娘さんの手記。

## 「母のリウマチ」匿名希望

(娘さん記述) 79歳

2015年11月20日

2011年 春

手のこわばり、物をうまくつかめないといった症状があり、近所の医院にて診察を受けました。リウマチと診断され、胃薬、ロキソマリン(鎮痛薬)、湿布薬を処方されました。

2011年 夏

リウマチに関するといろいろな本を読みあさった結果、医者に見てもらっても治らないことが判明したので、私は“体を温める民間療法”を母に勧めてみました。試してもらったのはニンジンジュース、生姜紅茶などです。しかし、本人のみではうまく行う事が難しかったらしく、そのうちやめてしまいました。

2012年～2014年の2年間

リウマチの進行はゆるやかだったようです。数ヶ所の医院に同じような薬を処方されては、副作用(めまいや気持ち悪いなど)で、すぐに飲むのをやめるということを繰り返していました。

2014年 12月

左足首に痛みを感じ、普通に歩く事が難しい状態になりました。本人も観念したらしく、どうしたらよいかを真剣に考えていたようです。

2015年 4月上旬

症状が悪化した今ならば、娘の私の勧める治療方法を素直に聞くだらうと思い、“リウマチ 漢方”で検索してみると、松本医院がヒットしました。ホームページをサラッと読んだだけでしたが、直感で「この方法しかない」と思いました。母は昔から鍼に通ったり、祖母から勧められた苦い漢方薬を飲んだりしていたからです。

2015年4月25日 松本医院 受診

診察室に入ると、私達が“煎じ薬をもらって帰るだけ”という軽い気持ちで受診したことを見破られたかのように、松本先生は『ホームページ見たか？リウマチに何でなるかを言ってみ』と質問されました。サラッと見ただけだった私が答えられずにいると、先生は『俺は金儲けでやってるのとちゃうねん。賢い人しか相手にせんから帰れ！』と追い返されてしまいました。とてもショックでしたが、私は「松本先生の漢方薬でしか母のリウマチは治らない」と考えていたので、なぜか心の芯が揺れることはなかったのです。

2015年5月9日

「今度こそ漢方薬を持って帰ろう」とホームページを何度も読み返し、再受診しました。先生は、前回のことを鮮明に憶えて頂いていたようで、『追い返されたのによくきたなあ』とおっしゃいました。びくびくだった私は涙が出そうになりながら、先生の言葉を聴いていました。先生はさらに『この人（母）を治すのはあんた（娘の私）や』とおっしゃいました。煎じ薬を沸かしたり、沸かさなかったり、面倒くさくなってサボりがちになり、やめてしまう母の性格を、先生は知っているかのような言葉でした。私はその瞬間、「腹をくくらないとあかん」と覚悟を決めました。煎じ薬とアクシロビルを2週間分、入浴剤2回分をいただいた私達は、帰ってすぐに煎じ薬を作り、煎じ薬とお灸三昧の日々がスタートしました。『この人を治すのはあんたや』、先生のこの言葉を胸に刻みながら、毎日毎日、煎じ薬を沸かし、お灸を据えました。

その後、5月23日、6月6日、6月24日、7月11日、7月28日と受診しましたが、79歳の母の体には40分の通院と1時間ほどの待ち時間は辛かろうと、私のみで通う日が増えていきました。3週間分の煎じ薬とアクシロビルを処方してもらい、「クラススイッチは、まだまだかな～」と感じる毎日でした。

母は「お灸熱すぎて泣けてくるわ」、「毎日煎じ薬でお腹たぼたぼや」、「薬が大きすぎて喉とおらんわ」、「この薬飲んだらお腹壊すからやめとくわ」などと文句を言いながら治療を続けていました。

2015年8月のお盆

ついに母が痒みを訴えました。

クラススイッチ…、高齢だったので時間がかかると思っていました。5月から煎じ薬を飲みはじめて、約4カ月弱、毎日夢中で走ってきたような日々でした

8月25日の受診

クラススイッチしたような症状が出た旨を先生に報告し、母の顔や手足の写真を見てもらいました。この日も私一人の受診でしたが、「おめでとう」の言葉

と、新たな塗り薬や飲み薬をもらい、意気揚々と帰路につきました。

母の足の痛みは、本人によると「約半分くらいの痛みに減った」とのことでした。先生によると、「首を小刻みに振る症状は、ヘルペスによるもの」とのことだったので、抗ヘルペス剤の服用量は、最初の6錠から倍の12錠まで増えました。

右手が動きにくい症状は、変化がないようでしたが、「痒みに塗りなさい」ともらった塗り薬は、よく効くようで、「痒みが収まってきた」とのことでした。

毎日快食快便になったので、母は「煎じ薬のおかげだ」と喜んで飲むようになりました。お灸もしないと気持ち悪いようです。足先もあまり冷えないようで、良いことばかりでした。

完全に元の体に戻るのには、まだまだ先のようにですが、もし元に戻らなかったとしても、松本医院に行くまでよりも良くなって大変喜んでいきます。手押し車を押しながら、自分の行きたい所へ出掛けられるのは、何物にもかえがたい喜びです。

「先生と漢方を信じてついてきて良かった」、「追い返されても諦めずに良かった」とつくづく思います。これからも引き続きお世話になります。ありがとうございました。